

選択教科「社会」における活用（交流学习における活用）

社会科学習では、調べ方や学び方、見方や考え方を学ぶ学習などの充実を図り、作業的・体験的な学習など生徒の特性等に応じた多様な学習活動を展開することが求められている。

そこで、より豊かな教科学習の展開を目指して、本 Web 教材を利用した交流学习を実践した。

1 交流学习の進め方

(1) 交流学习の意義

交流学习は、地理的に離れた学校同士が、それぞれの共通点や相違点に着目して、テーマを設けて調査、研究、実験をしたり、共同で作品制作をしたりすることを特徴としている。生徒たちは、意思疎通を図りながら学び合い、協力して課題に取り組むことにより相互理解を深めることができる。

学校におけるインターネットの普及は、手紙など従来の交流手段に比べ、学校間の地理的・時間的な制約を大幅に解消し、幅広い学習を可能にした。インターネットを利用した交流学习の教育的意義としては、教科のねらいを達成すること以外に、主に次のような点が挙げられる。

地域性や価値観の多様性に対する気付き

インターネットを利用すると、学校やその周辺だけを調査した場合と比べて、相手地域の豊富な情報を収集することができる。また、共通のテーマで複数の学校が調査を進めた場合、その結果の差異を認識し合うことで、生徒たちに考え方や価値観の多様性を気付かせることができる。

情報活用能力の育成

交流学习では、必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、相手の状況などを踏まえて発信・伝達する高度情報通信社会の問題解決パターンを何度も体験できる。それによって、コンピュータやインターネットに触れ、疑問や問題を解決できる道具として活用する方法を体得することになる。

コミュニケーション能力の育成

お互いに協力して調査し成果を報告し合ううちに、交流する相手を意識して、自分たちの考えを理解してもらい分かりやすい表現を工夫するようになる。それによって、相手に応じた表現がそれぞれ必要であるということを理解する機会になり、国際化、ボーダレス社会におけるコミュニケーションの基本的な態度が養われる。

(2) 交流学习の基本過程

交流学习の手順はいろいろ考えられるが、基本的には次のように進める。

ア テーマ決定

テーマは、交流学习の成功のカギを握る重要なポイントである。疑問に思ったことや知りたいと思ったこと、また、毎日の生活や身近な環境からヒントを得たことなどをきっかけに、

ホームページを見たり地域の人の話を聞いたりして理解を深め生徒たちと一緒に考えながらテーマを決める。

イ 計画立案

テーマが決まったら、交流に入る前に計画を立てる。計画は、全体を「調査」「研究」「まとめ」「発表」などといった3～5段階程度に整理して、それぞれをいつごろまでに行うか実施期間を決めておく。また、役割分担もしておくといよい。

計画立案に当たっては、生徒たちが主体的に進められるように配慮しながら、教師の十分な支援が必要である。

ウ 準備

交流学习に必要な道具や情報を収集する。交流学习の相手との交流方法や内容の確認も必要になる。どんな取材をするか、どんな道具（コンピュータ・デジタルカメラ等）が必要か、できるだけ生徒たち自身が計画し、準備することが望ましい。

また、改めて役割分担、交流の目的や方法の確認や整理が必要である。

エ 交流

テーマと計画に沿って交流を進める。途中で交流相手と情報交換したり、ホームページにまとめて中間発表したりしながら学習を進めるようにする。相手校との交流会もできると励みになり、地域性や価値観などの多様性に対する理解も深まる。

オ まとめ

収集した情報や調べて分かったことを、発表するためにまとめる。集めた情報から何が読みとれるか、どんな形でまとめると分かりやすいかを考えさせながら、相手に理解してもらうことを意識させて取り組ませる。

カ 発表

インターネットによる公開を前提として、壁新聞や冊子などにまとめたり、校内発表会をしたりするなど、複数の方法を併用することで学習内容のより深い理解が得られる。

(3) 交流手段の特性と活用例

交流手段としてインターネットを利用する場合、表3に示すような特性や活用例を把握しておく必要がある。

表3 インターネットを利用した交流手段と活用例

交流手段	長 所	短 所	活 用 例
電子掲示板	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多人数による意見交換等が可能で、情報の共有化ができる。 ・ あまり時間に制約されないうで、交流ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リアルタイムでの交流にはあまり適さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定のテーマについて討論する。 ・ 自由に意見交換する。 ・ 複数校間で同時に交流する。
電子メール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章のほかに、様々な形式の情報を送ることができる。 ・ あまり時間に制約されないうで、交流ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リアルタイムでの交流にはあまり適さない。 ・ メールアカウントの数によって交流が制限されやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問、紹介、連絡などの簡易な文書を送る。 ・ 画像や音声を添付して送る。 ・ 手書き文書をスキャナで取り込んで添付して送る。

チャット	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムでの意見交換等ができる。 同時に、多人数の会話が可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> キーボード入力の訓練も必要な場合がある。 交流のために同一の時間設定をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数でリアルタイムに意見交換をする。
ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> 画像、音声、動画などの様々な情報を多量に利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換には適さない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材等の情報検索をする。 発表内容の詳細な紹介をする。
テレビ会議	<ul style="list-style-type: none"> 映像や音声により、リアルタイムで交流ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク環境により、その安定性が左右される。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表や意見交換をする。 複数校間で同時に交流する。 画面を見ながら共同作業をする。

2 交流学習の構想

本 Web 教材を利用した交流学習を進めるに当たって、選択教科「社会」における交流学習や交流手段の選択等について、次のように構想した。

(1) 選択教科「社会」における交流学習

中学校学習指導要領 社会科編では、従前のものと比べて、「第3学年における」を削除する一方で、「第2の内容その他の内容で各学校が定めるもの」というように「その他の内容で各学校が定めるもの」が新たに付加されている。さらに、学習活動例においては「分野間にわたる学習」が削除される一方で、「課題学習、体験的な学習、補充的な学習、発展的な学習」が新たに付加されている。

中学校の選択教科「社会」の授業において、遺跡や歴史資料館等が近くにある場合、インターネットを利用して交流学習をすれば、生徒たちは、電子掲示板等を利用して意見交換や情報交換を行いながら、身近な遺跡等に直接出掛けて見学や調査をしたり、遺跡発掘などの体験的な学習をしたりして、多様な学習活動へ発展させていくことができる。

そして、このような学習活動を通して、学習意欲の向上、相手意識や社会の一員である自覚の高まり、郷土のよさの発見など学習が広がり深まるとともに、情報活用能力やコミュニケーション能力の育成を図ることができると考えた。

(2) 電子掲示板等を利用した交流

電子掲示板は、生徒たちが多数で特定のテーマに関する討論や意見交換を行う交流手段として、最も手軽に発信でき、情報を共有しやすいメリットがある。また、学校における通信回線や校内LANの状況を考えると、テレビ会議など他の交流手段と比較して、最も利用しやすい交流手段の一つである。

そこで、交流学習による地域性・多様性への気付きや地域への関心を高めるとともに、歴史の学び方を身に付けさせることをねらいとして、Web教材の「交流学習」(コーナー)や「チャレンジコーナー」に設けた電子掲示板及び電子メールを利用して、図10のようなイメージで交流学習を進めることにした。

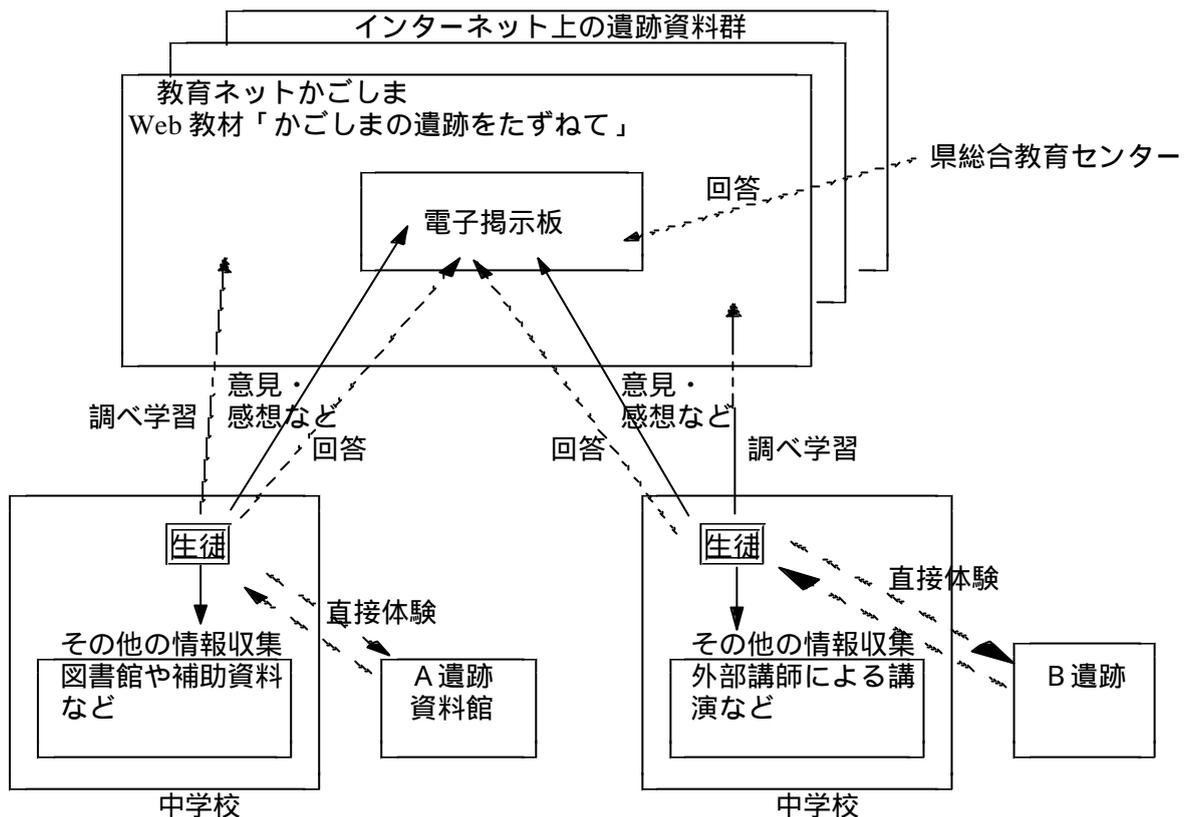


図 10 交流学习のイメージ

(3) 電子掲示板等を利用した交流学习の留意点

コンピュータやインターネットの使い方を学ぶ時間の設定

インターネットがどういうものなのかおおよそ理解し，コンピュータの基本的な操作ができるようにしておく。

ネチケットの理解

交流学习は他者とのコミュニケーションが基本である。このような機会を通して，情報モラルについて十分理解させておく必要がある。

学習内容の質問・感想，回答の方法

交流手段として電子掲示板を中心に用いるが，電子メールなど他の交流手段も使えるように配慮する。

個人情報への配慮

「Web 教材は不特定多数の人が見ることができる。」「学校名と氏名があれば個人を特定できる。」ことから，電子掲示板では氏名等の個人情報を記入せず，イニシャルや名前（例：太郎等）だけの表記とする。個人同士の交流が必要な場合は，電子メールを用いる。

3 交流学习の実際

交流学习の構想を踏まえ，上野原遺跡に近い国分市立国分南中学校と，立切遺跡や町立歴史民俗資料館に近い中種子町立野間中学校に調査研究の協力を依頼した。両中学校とも，インターネットを利用した交流学习は初めての試みであったが，調査研究協力者を中心に熱心な取組が展開された。

(2) 電子掲示板を活用した2校間交流の様子

国分市立国分南中学校	掲示板による交流の様子	中種子町立野間中学校
 <p>オリエンテーション (1時間)</p>	<p>国分市には、縄文ミュージアムができるそうですね。どのような施設か教えてください。 遺跡を調べていてどんなことが楽しいですか。 町の歴史民俗資料館に行って、遺跡について興味がわいてきました。</p>	<p>オリエンテーション (1時間)</p> <p>歴史民俗資料館の見学 (1時間)</p> <p>グループ編成，課題設定 (1時間)</p>
<p>グループ編成，課題設定 (1時間)</p>	<p>縄文ミュージアムは、来年のオープンを目指して今建設中です。私たちのグループは、連穴土坑や集石などについて調べました。立切遺跡にはありますか。 上野原遺跡の竪穴式住居では、クマザサで屋根をふいていたようです。</p>	<p>Web教材による調べ学習 (2時間)</p> <p>Web教材を利用した調べ学習，意見・疑問等の掲示板への書き込み (2時間)</p>
<p>Web教材の利用，上野原遺跡の説明 (1時間)</p>	<p>上野原遺跡を見学しました。竪穴式住居や連穴土坑の事など分かりやすく教えてもらいました。私たちは、夏休みにボランティアガイドをします。来てもらえたらうれしいな。</p>	
<p>Web教材を利用した調べ学習，意見・疑問等の掲示板への書き込み (2時間)</p>	<p>上野原遺跡にボランティアガイドの研修に行きました。本番でうまくできるか心配です。</p>	
<p>外部講師による上野原遺跡ボランティアガイドの説明 (1時間)</p>		
<p>上野原遺跡見学 (1時間)</p>	<p>いっぱいメールをくださって、うれしい気持ちでいっぱいです。夏休みのボランティアガイド、きっとうまくできると思います。私たちも行ってみたいな。</p>	<p>Web教材を利用した調べ学習，意見・疑問等の掲示板への書き込み (1時間)</p>
<p>Web教材を利用した調べ学習，意見・疑問等の掲示板への書き込み (1時間)</p>		
<p>学習のまとめ (1時間)</p>		<p>学習のまとめ (1時間)</p>

(3) 遺跡ボランティアガイドへの発展

国分南中学校では、校区内で発見された貴重な上野原遺跡に対する理解を更に深めるた

めボランティアガイドに取り組んだ。

(2)の交流の様子でも分かるように、授業に外部講師（ボランティアガイド）を招き、遺跡の概要やガイドの仕方について説明を受けたり、また、直接現地に出掛けて、外部講師と一緒に順路を回り、説明を受けたりしながら、案内のポイントやタイミングを学んだ。外部講師の「県外から来た人には遺跡だけでなく桜島や霧島の位置など地理的なことも教えてあげて。」とか



「今後の整備計画も話そう。」など、現場ならではのアドバイスに、生徒たちは熱心に聞き入っていた。生徒たちは、「うまく説明できるか不安もあるけど、もっと勉強して分かりやすく伝えたい。」と、ボランティアガイドに意欲をみせた。

この学習の成果は、7月24日から10日間に渡る上野原遺跡ボランティアガイドの中で、随所に生かされた。

4 授業の考察

選択教科「社会」における本 Web 教材を利用した交流学习を通して、生徒たちは、同じテーマで進める学習活動に、興味・関心をもって主体的・意欲的に取り組んだ。その中で、地域性や多様性について考えたり、問題解決をするための調べ方や学び方、見方や考え方を学んだりした。さらに、コミュニケーションの方法や情報モラルなどネットワークを利用するときのマナーについて体験的に理解を深めることができた。

(1) 地域性や多様性の理解

生徒たちは、交流学习を通して、地域や学校ごとの違い、一人一人の見方や考え方の違いなど様々な違いに気づき、理解することができた。

交流学习の中で、両校とも近くの遺跡や資料館について学習することにより、他の遺跡についても学習したいという興味や関心を高めている。さらに、遺跡について意見交換や情報交換をしながら、お互いに理解を深めようと努力し、また、相手校の積極的な取組に対して、自分たちもやらなくてはと奮起するなど相互啓発の様子もうかがえた。

(2) 情報活用能力の育成

生徒たちは、交流学习を通して、コンピュータやインターネットを問題解決、表現、交流などの手段として、その価値や利用法を理解することができた。

まず、遺跡についての情報を収集・判断する段階では、教科書・図書資料等と併せて、インターネット上の Web 教材やその他の関係資料（国分市や中種子町のホームページに掲載された遺跡資料など）を利用したり、近くの遺跡や歴史民俗資料館等に出かけたり、さらに、電子掲示板等を使った疑問や質問とそれに対する回答のやり取りを通して、調べ学習を行った。生徒たちは、問題解決のために情報が必要であること、いろいろな情報収集の方法があること、たくさんある情報の中から問題解決に役に立つものであるかどうか判断しなければならないことなどについて考え、理解することができた。

また、遺跡についての情報を表現・処理・創造する段階では、グループごとに調べたことの話合いや、交流相手との意見交換や情報交換を通して、情報をノートにまとめたり、地図に記入したりして、リーフレットや壁新聞を作成した。生徒たちは、文章・写真などによる情報の表し方や、整理・分類などの情報の処理にはいろいろな方法があること、収集した情報を基に独自の見方や考え方で新しい情報を創り出すことの大切さについて考え、理解することができた。

さらに、遺跡について交流相手の状況などを踏まえて発信・伝達する段階では、生徒がグループごとに作成した作品を使って、クラスで発表したり、交流先へまとめた内容を発信したりした。生徒たちは、情報を伝えるには、いろいろな方法があること、情報を相手に、正しく、分かりやすく伝えることは大切なことであること、相手にいやな思いをさせないように情報を伝えなければならないことなどについて考え、理解することができた。

しかし、ネットワーク環境や生徒のコンピュータスキルのレベルは、現段階においてまだ十分とは言えず、今後、技術・家庭科の「情報とコンピュータ」をはじめとして、すべての教育活動の中で体系的に情報教育を位置付け、コンピュータやインターネットなどの積極的な活用を図るための学習活動の充実に努める必要がある。

(3) コミュニケーション能力の育成

生徒たちは、交流学习を通して、相手のために「どう伝えれば分かってもらえるか」「何を伝えるべきか」考え、表現を工夫し、伝える努力をすることができた。

しかし、従来の学習形態と違い、顔の見えない相手と電子掲示板で交流学习をしたのは、両校とも初めてで戸惑いもあった。コミュニケーション能力の育成は、グローバル化や他者との共生が求められるこれからの社会において重要課題であり、学校では、教科等におけるインターネットを活用した交流学习への積極的な取組が期待される。

